

「平成31年学校教育学部同窓会総会・研修会」を開催

平成31年1月5日（土）に、神戸ハーバーランドキャンパスにおいて、恒例の同窓会総会ならびに研修会が開催されました。今回はお正月気分がまだ残る日程での開催となりましたが、50名を超える卒業生が集まりました。初めての試みとして「託児ブース」を設けたことで、小さな子どもを連れての参加が数組見られたことは、役員一同大変うれしいことでした。また、大学からは福田光完学長をはじめ大学関係者8名が参加してくださいました。



総会は、山口拓哉さん〔31期学年副幹事長〕の司会進行で始まり、冒頭で大石学会長〔10期〕から開会挨拶がありました。続いて、野中久彰さん〔21期〕が議長として選出され、以下の議案について審議がなされました。

- 1号議案「平成30年事業報告」
- 2号議案「平成30年会計決算報告及び監査報告」
- 3号議案「平成31年事業計画（案）」
- 4号議案「平成31年会計予算（案）」
- 5号議案「会則の改正」



これらすべての議案が拍手をもって、原案通り承認されました。なお、3号議案「31年事業計画（案）」では、最後となる同窓会名簿の年度内の発行に向けて調査・編集作業を行うことが確認されました。また、5号議案「会則の改正」は、学部組織改革により、開学以来続いてきた「専修の‘コース’制度」が無くなり、31年度入学生（38期生）からは全員が均等に‘クラス’分けされることに伴って、幹事選出の母体の表記を変更するというものでした。

続いて行われた研修会では、福田学長によるご挨拶に続き、本学社会系教育コースの森秀樹教授による「対話で考える ―なぜ勉強するの―」と題する対話形式の講演が行われました。このテーマ・企画は担当期の同窓会役員（21・22・31・33期）が森先生と相談を重ねる中で練り上げたものでしたが、子どもからしばしば聞かれ、また自身もかつて疑問に思った経験を皆持っているだけに、フロアの方ではどのような展開になるのだろうかという興味津々でした。



講演は、まず森先生から、新学習指導要領の改訂のポイントでもある「主体的・対話的で深い学び」における「深い学びとは何か」という問いかけから始まりました。続いて、「なぜ勉強するのか」という何気ない子どもの問いかけに教師としてどう答えるのかについて、森先生が同窓生の竹安雄一さん〔21 期学年幹事長〕、高田(谷口)陽子さん〔21 期〕、小野村保乃佳さん〔33 期学年幹事長〕の 3 名と対話を重ねつつ、徐々に話が進んでいきました。その中でも印象に残った森先生のフレーズは、次のようなものでした。



我々は日常の中でなぜ？を問わなくてもよい状態で生きている。そのような中で対話することによって、どう考えたらよいのかの「方法」が分かる。言い換えれば、考えるためのヒントを他の人が与えてくれるのである。だからこそ、今回の「なぜ勉強するのか」といったような問いに直接的に慌てて答えるのではなく、問いが生まれてきた現象の記述をすること、すなわち、その問いが生まれてきた現場を直視し、その問いが語りかけている「本当の問い」を知ろうとすることが大切である。

参加者からは予定の時間を越えても次々と質問が出るなど、非常に熱のこもった研修会となりました。

最後に、時村(西田)由希子さん〔16 期学年幹事長〕がお礼の言葉とともに閉会挨拶を行い、総会・研修会を締めくくりました。その後、参加者全員での記念写真撮影が行われ、久しぶりに顔を合わせた旧友、そして新たにつながった同窓生が、福田学長、名須川副学長、福井副学長、柴崎事務局長、青山教育研究支援部長とともに一緒に写真におさまりました。

その後は、ハーバーランドキャンパスでの総会・研修会後の定番となった、センタービル地階にある「モズライトカフェ」での懇話会では、年代を越えた同窓会員、そして大学教職員が和気あいあいの内に親睦を深めました。

今回は、2020 年 1 月 11 日(土)の開催になります。今年は 5 月からの新しい元号のもと、どんな一年になるのかなあと言いつつ、再会を誓って散会しました。

